

露地野菜（ねぎ）の優良品種の選定及び地域適応性の検証

要約

「No. 1016」は、単収及び秀品率が、対照区である「夏扇タフナー」に準ずる結果で、供試品種の中で最も良かった。

「森の奏で」は、収量は少なかったが、1本当たり重量は重かった。

「THN-160」は、緑葉が大きいですが、出荷物の秀品率は低かった。

○ 展示のねらい

露地野菜の品種は各メーカーで多くのラインナップを揃えているが、県内水田への栽培環境への適合性は不明なものも多い。そこで、水田で、品種の違いが生育や収量に及ぼす影響について調査する。

播種は、3月20日に264穴ペーパーポットへ2粒/穴播きで行った。

定植は、5月26日に株間5cm、条間90cmで行った。

土寄せは、6月下旬からおよそ3週間おきに、「森の奏で」及び「THN-160」は5回、「No. 1016」及び「夏扇タフナー」は6回行い、土寄せ毎に追肥を窒素成分で2kg/10a程度行った。

収穫は、それぞれの区の収穫適期に収穫した。

○ 主な成果

表 収量及び秀品率

	2L	L	M	S	秀品外 重量	重量合計	単収	秀品率	収穫日
	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg/10a)	(%)	(月日)
No. 1016	197	429	429	99	210	1,364	3,411	85	11月23日
森の奏で	162	458	412	64	170	1,266	3,166	87	11月16日
THN-160	46	464	568	70	230	1,378	3,446	83	11月8日
夏扇タフナー	81	464	580	93	180	1,398	3,495	87	11月30日

※ S～2L（秀品）は、5.8kg/箱。秀品外は、10kg/箱。定植面積は、4a/区。

収量は、対照区の「夏扇タフナー」と比較して、「No. 1016」及び「THN-160」が同等であった。

秀品率は、「夏扇タフナー」と比較して、「森の奏で」が同等であった。

水田へ作付けしたことによる、生育不良等は認められなかった。

病害虫の発生は、見られなかった。

水田においても、2～3年に1度のプラソイラによる心土破碎等の過湿対策をすることで、畑と同様にねぎ栽培ができる。

○ 今後の方向性

生育期間の長さや収量と品質のどれを重視するか等、産地が望む品種を選定する必要がある。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：小山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315